

岡崎市議会議長 様

支出番号	1
------	---

会派名 民政クラブ
代表者名 太田俊昭



下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動旅行報告書

平成29年 7月31日提出

活動年月日	平成29年6月26日(月)～平成29年6月27日(火)	
氏名	柴田敏光、井村伸幸、加藤嘉哉	
用務先 及び 内容	1	用務先 大阪府吹田市
	6月26日	内容 北大阪健康医療都市について
	2	用務先 京都市
	6月27日	内容 はばたけ未来へ！京プランについて
	3	用務先
	月 日	内容
	4	用務先
	月 日	内容
備考		



委員会・会派名	民政クラブ（柴田敏光・井村伸幸・加藤嘉哉）	
視察日時	平成29年6月26日（月）13時30分から14時40分	
視察先・概要	大阪府吹田市 人口367,510人、世帯数166,830、面積36.09km ²	
視察内容	「北大阪健康医療都市」について	
選定理由（目的）	医療機関を中心とした街づくりの施策を参考にする為	
岡崎市の現状と課題	H32に藤田保健衛生大学病院が開院するが、それに伴い周辺地域が、道路を含めてどのように発展するのか、また発展すべきかの方策について検討が必要。	
視察概要及び評価 	<p>北大阪健康医療都市</p> <p>① 愛称：健都（けんと）</p> <p>② 所在地：吹田操車場跡地（50.2ha）</p> <p>③ 施設：国立循環器病研究センター・市立吹田市民病院・健康増進公園・図書館 都市型居住地・高齢者向け医療・介護一体型住宅・健康医療関係の企業・大学・研究機関</p> <p>④ 完成予定：H31.7月にて全ての施設の供用開始予定</p> <p>事業計画等</p> <p>吹田操車場跡地及び健都イノベーションパークを対象に健康・医療のまちづくりを推進する。</p> <p>まちづくりの概要</p> <p>H30.市立吹田市民病院開院・駅前複合施設（JR西日本）H31.国立循環器病研究センター完成予定。医療関連企業・研究機関を誘致・集積し、国際級の医療クラスターを形成する等、「健康・医療」のまちづくりを推進。</p>	
本市への反映 （意見・課題など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR貨物の広大な跡地を健康医療都市のまちづくりとして実施される事業であり、国立医療機関と市民病院、商業施設、居住地と公園を含め連携の取りやすい開発である。駅を中心に行われ利用もしやすく市民にとっても大変良い内容ではないかと感じた。本市も一つの用地で行うことは難しいが、連携のとりやすい工夫も考えていかななくてはならないと思う。（柴田敏光） ・コンパクトシティの観点からも、医療機関はじめ公的機関や複合施設等を集約する子yとは必要な事と考える。昨今、高齢者のみの世帯が増える中、公共交通機関に近く、また医療機関や複合商業施設が近い医療都市の形成は理想の形態と考える。今後、“予防医療”を実践していく上で官民が相互連携していくことも必要なことであり、岡崎市においても健康なまちづくりを推進する上での参考事項と考える。（井村伸幸） ・操車場跡地という広大な土地を利用し、医療機関・企業・大学等の産学官民連携拠点として一大健康医療都市を形成されるという事で、高齢者にも安心して暮らせるまちづくり、健康づくりの為の自由通路・遊歩道により、老若男女問わず、健康増進に努めることが出来る恵まれた環境は非常にうらやましい限りである。立地条件に違いはあるが、本市においても見習える部分については、参考にして活かしていきたいと考える。（加藤嘉哉） 	

●政務活動視察報告書 (No.384)

委員会・会派名	民政クラブ（柴田敏光、井村伸幸、加藤嘉哉） 記：井村伸幸																
視察日時	平成 29 年 6 月 27 日（火）午前 10 時 00 分～午後 1 1 時 30 分																
視察先・概要	<p>京都府京都市 ・人口：1,378,909 人 ・世帯数：669,902 世帯 ・面積：218.13km²</p> <p><u>特記事項</u>：1200 年を超える悠久の歴史に生まれ、多くの国宝や重要文化財などを有し、山紫水明の美しい自然と落ち着いた都市景観との調和が取れた歴史都市。2013 年度には「京都市エネルギー政策推進のための戦略」を策定し、原子力発電に依存しない持続可能なエネルギー社会に向けた取組を推進。</p>																
視察内容	「はばたけ未来へ！京プラン」について																
選定理由（目的）	<p>少子高齢社会がどの自治体においても課題となる今、本市においても高齢者が高齢者を介護する状況、即ち、介護者の不足が問題となってきている。京都市は、平成 22 年度に「はばたけ未来へ！京プラン」を策定し、10 年後の未来像の実現に向け取り組んでいる。プランの中には、未来の担い手育成戦略も含まれており、いかにして担い手確保・定着へ向け取り組んでいるかを視察し、参考とする。</p>																
<div data-bbox="153 976 440 1205" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="153 1238 395 1368">ご説明いただいた 京都市 保健福祉局 和田課長</p> <div data-bbox="153 1541 440 1747" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="153 1776 424 1951">ご対応いただいた京 都市 保健福祉局 和田課長（右）、伴係 長（中）、鳥潟様（左）</p>	<p>【京都市における介護の担い手確保・定着の取組について】</p> <p>1. 介護担い手の需給推計</p> <p>(1) 厚生労働省による需給推計（平成 27 年 6 月時点）</p> <table border="1" data-bbox="571 943 938 976"> <tr> <td colspan="4"><u>介護職員数 平成 37 年度</u></td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>需要：253 万人</td> <td>供給：215 万人</td> <td>37.7 万人不足</td> </tr> <tr> <td>京都府</td> <td>需要：51,940 人</td> <td>供給：45,129 人</td> <td>6,811 人不足</td> </tr> <tr> <td>愛知県</td> <td>需要：131,852 人</td> <td>供給：107,461 人</td> <td>24,391 人不足</td> </tr> </table> <p>(2) 国の取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ①介護人材の処遇改善 ②多様な人材の確保措置の拡充 ③生産性の向上（ICT や介護ロボットの導入を推進） <p>(3) 京都市の取組・・・『はばたけ未来へ！京プラン』</p> <p>目指すべき 10 年後の姿：「健康長寿のまち・京都」をみんなでつくる ⇒介護現場が魅力的な職場となることにより、職員がやりがいをもって活躍している姿</p> <p>2. 介護の担い手確保・定着の取組について</p> <p>介護現場を担う社会福祉法人等とともに「新しい3K」（①給料がしっかり払われている②休暇がとれる③希望が持てる）を満たす職場づくりを推進</p> <p>(1) 介護の担い手確保・介護の魅力発信</p> <ol style="list-style-type: none"> ①介護の日記念事業 <ul style="list-style-type: none"> ・毎年「介護の日（11 月 11 日）」に京都市老人福祉施設協議会と共催 ・街頭での啓発事業、施設見学、記念フォーラム、介護現場の写真展示など ②市長との「おむすびミーティング」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・市老協の施設若手職員と市長との意見交換会を開催 ③きょうと市民しんぶんに関連記事の掲載 <ul style="list-style-type: none"> ・全戸配布の広報誌に、介護職場の魅力を伝える特集記事を掲載 ④FUKUSHI 就職フェア <ul style="list-style-type: none"> ・新卒・一般職向けに年 2 回（3 月、6 月）開催 <p>(2) 介護の担い手の定着促進</p> <ol style="list-style-type: none"> ①合同入職式 <ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員のモチベーション向上、各施設間の連携 	<u>介護職員数 平成 37 年度</u>				全国	需要：253 万人	供給：215 万人	37.7 万人不足	京都府	需要：51,940 人	供給：45,129 人	6,811 人不足	愛知県	需要：131,852 人	供給：107,461 人	24,391 人不足
<u>介護職員数 平成 37 年度</u>																	
全国	需要：253 万人	供給：215 万人	37.7 万人不足														
京都府	需要：51,940 人	供給：45,129 人	6,811 人不足														
愛知県	需要：131,852 人	供給：107,461 人	24,391 人不足														



パワードスーツ HAL



愛移乗くん



リトルキーパス

- ②介護ロボット導入促進事業
 - ・国の「介護離職ゼロ」の実現に向けた補正予算を活用
 - ③京都市長寿すこやかセンターにおける研修
 - ・キャリアに応じた「キャリアパス対応型生涯研修課程」を実施
- (3) 処遇改善の国への要望

- ①介護の担い手の安定的な確保に向けた正規職員の離職防止等を図るため、給与等の労働環境向上に向けた財政措置など、必要な措置を講じるよう国に強く要望
- ②必要条件を満たした事業所の職員に対し、月額 1 万円相当の処遇改善を追加

3. 介護ロボット導入促進事業

(1) 経緯

国：「介護離職ゼロ」の実現に向け、介護従事者の負担軽減を推進する介護ロボット導入促進事業を平成 27 年度補正予算に盛り込む（38 億円）

⇒京都市（平成 28 年度）：介護の担い手の確保・定着を図るため、介護ロボットを導入し、環境整備を図る介護保険施設・事業所に対して、その導入費用を助成（予算額：3, 000万円）

(2) 介護ロボット導入促進事業の概要

①対象となるロボット

移乗支援・移動支援・排泄支援・見守り支援・入浴支援において利用することで介護の効率化や負担軽減などの効果がある 20 万円超の介護ロボット

【参考】

- 移乗支援：パワードスーツ“HAL”・・・約150万円
愛移乗くん・・・約40万円
- 移動支援：リトルキーパス・・・約20万円
- 見守り支援：ベッドマット+サーバー・・・約30万円
(別途ディスプレイが必要)

②補助額

1 施設・1 事業所につき上限 300 万円（補助率 10/10）
⇒協議額が国予算を大幅に超過したために内示額は 1 法人・1 施設・1 事業所あたり最大 9 万 7 千円（50 事業所が該当）

高齢者が高齢者を介護する時代が到来する（している）ことから、介護の担い手確保は喫緊の課題である。特に「新しい 3K」を満たす職場づくりは確保後の定着促進にもつながると考える。そのためにも介護報酬の改定など、現場の声を吸い上げる必要があり、京都市における市長と若手介護従事者（職員）とのミーティング（おむすびミーティング）の必要性をより一層強く感じた。また、昨今、様々な介護ロボットが開発されていることから、各施設に対しロボット導入に対する補助制度の充実なども考慮すべきと考える。（井村伸幸）

本市への反映
(意見・課題など)

○介護士の定着、離職を防ぐということで、一自治体での国への陳情では前に進まない。全国全市町村が連携をし、介護士の報酬アップを訴えていく必要があり、報酬だけでなく定着促進のために本市独自の工夫も必要である。また、介護ロボットに対しての各事業者への助成も考えるべきである。少しでも介護士の負担が減るように行うべきである。（柴田敏光）

○本市においても介護職の魅力発信・介護従事者の負担軽減など、取り組むべき施策は山積している。先進的に取り組んでいる自治体を参考に、介護士の処遇改善を、より一層、努めていかななくてはならない。（加藤嘉哉）